平成 30 年 11 月 16 日
(2018 年)

第三学年保護者の皆様へ

吹田市立第三中学校
校長　山口　廣治

平成 30 年度　全国学力学習状況調査の分析について

本年度、３年生を対象として「平成３０年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9 月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった３年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１．教科に関する調査結果の分析

□　国　語

《結果の概要》

○国語Ａ問題（主として『知識』に関する問題、総問題数３２問）

・基礎的、基本的な知識・技能が身についているかどうかをみる問題である。本校の正答率は全国値とほぼ同じである。

・評価の観点では、「読むこと」の領域で、本校の正答率は全国値を上回っていた。また、文脈の中における語句の意味を問われる問題では、全国値を上回っていた。

・漢字の書き取りは全国値を下回り、読み取りは全国値とほぼ同じであった。

・論理的に展開することや構成を組み立てるというところに課題がみられる。

○国語Ｂ問題（主として『活用』に関する問題、総問題数９問）

・基礎的・基本的な知識を活用することができるかどうかをみる問題であった。本校の正答率は全国値とほぼ同じである。

・評価の観点では、「話すこと・聞くこと」の領域の中で、「質問の意図をとらえる」という選択式の問題で、本校の正答率は全国値を上回っている。しかし、「書くこと」の領域で「内容を整理して書く」や「あらすじを捉えて書く」、「グラフの読み取りから内容を捉える」という記述式の問題では、本校の正答率は全国値を下回り、無回答率も高い。

《課題と今後の取組》

○漢字の読み書きを覚えるだけでなく、語彙力を伸ばしていかないといけない。漢字テストや意味調べなども丁寧に行い、授業中に国語便覧、辞書なども適宜用いて、語彙力の底上げをしていきたい。

○文章を読み取ることはできているが、内容をふまえて自分の言葉で文章を書くことを苦手としている生徒が多い。授業で作文練習・テストを継続して行い、「書く力」を伸ばす工夫をしていきたい。

□　数　学

《結果の概要》

○数学Ａ問題（主として『知識』に関する問題、総問題数 36 問）

・基本的な数量や図形について、知識・技能が習得できているかどうかをみる問題である。本校の正答率は全国値をやや上回った。

・学習指導要領の領域別では、「図形」「関数」「資料の活用」の領域で全国値を上回っている。

・基本的な計算においては、ほとんどの問題で全国値をやや上回っている。

・前日との差を求める問題、立式の問題、どの性質を利用しているのかを選択する問題、資料の活用の問題においては全国値を下回っている。

・絶対値の問題、立式の問題、等式の変形問題、変域の問題、増加量を求める問題、確率の問題では無回答率が高い。

○数学Ｂ問題（主として『活用』に関する問題、総問題数 15 問）

・基礎、基本的な数量や図形についての知識・技能を発展活用することができるかどうかみる問題である。本校の正答率は全国値をやや下回った。

・学習指導要領の領域別では、「数と式」の領域で全国値をやや上回っている。

・「図形」「関数」の領域では全国値を下回っている。

・説明を求められる問題の無回答率が高い。

《課題と今後の取組》

○5 年前より引き続き行っている「授業開始テスト（JKT)」の成果として、計算力を問われる問題で、全国値をやや上回ることができている。今後も JKT を実施し、計算の反復練習をすることで、基本的な計算力を高め、数学に関する関心意欲を引き出していきたい。

○説明を求められる問題の無回答率が高いことから、普段の授業や定期テストに取り入れていく。

□　理　科

《結果の概要》（総問題数２７問）

○理科問題（主として『知識』に関する問題、総問題数 11 問）

・総合すると、全国値をやや下回る結果となったが、食塩水の濃度に関する設問への正答率は全国値を上回る結果となった。

○理科問題（主として『活用』に関する問題、総問題数 16 問）

・総合すると、全国値をやや下回る結果となったが、緊急地震速報に関する設問の正答率は全国値を上回る結果となった。

◇ 科学的領域(原子分子・濃度)では、全国値をやや上回る結果となった。

◇ 地学的領域(地震・気象)では、全国値をやや下回る結果となった。

◇ 物理的領域(電気・光)と生物的領域(動植物・反射)では、全国値を下回る結果となった。

《課題と今後の取組》

○特定の分野の限られた小単元に限って、正答率が低い傾向があるので、その単元を繰り返し指導していく必要がある。

○選択式の設問の正答率は全国値とほぼ同じであったが、短答式、記述式の設問の正答率は全国値を下回る結果となった。特に記述式問題の正答率が低く、無回答率が高い結果となっているので、考察の表現力を伸ばす指導を行っていく。

２．「生徒質問紙」に関する調査の分析

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査である。質問は全部で 59 問であったが、ここでは特徴的な結果が出た質問に関してのみ取り上げている。

基本的な生活習慣

・朝食の摂取率に関する質問は全国値とほぼ同じであった。

・就寝時刻、起床時刻がいつも同じであるかという質問に関しては、就寝時刻は全国値を下回り、起床時刻は、全国値をやや下回る結果となった。就寝及び起床時刻が早いか遅いかは今回の調査からは判断することができなかった。

・「放課後(週末)に何をして過ごすことが多いですか」という複数回答可の設問に対し、最も多く回答していた選択肢は「家で、テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」で、７割の生徒が回答していた。全国値や大阪府との差が見られたのは、「家族と過ごしている」という選択肢であった。

家庭学習等

・「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」という質問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合は、全国値とほぼ同じであった。

・「家で学校の授業の予習、復習をしているか」という質問に対して、「している」と答えた生徒の割合は全国を上回っているが、教科書を使いながらの学習の割合を聞く設問に対しては、「している」と答えた生徒の割合は２割に留まり、「どちらかといえば、している」と答えた生徒を含めても、全国値の７割に対し、６割に留まった。

・授業時間以外の、１日当たりの読書時間に関する設問に対し、「まったくしない」と答えた生徒の割合は、３割弱に留まった。

学校生活・学校での学習状況

・「学校の規則は守っていますか」という設問に対し、当てはまると答えた生徒の割合は、４割に留まったが、「どちらかといえば、当てはまる 」と答えた生徒を含めると、9 割を越えている。

・「課題解決に向けて、自分から取り組んでいたと思いますか」という設問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国値をやや上回っている。

・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますかという設問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国値を上回っている。

・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という設問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国値をやや上回っている。

家庭や地域とのコミュニケーション

・「家の人と学校での出来事について話をしていますか」という設問に対し、「している」、「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は全国値とほぼ同じであった。

・「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」という設問に対し、「参加したことがある」と答えた生徒の割合は、全国値の半分以下であった。

自尊心・規範意識

・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒の割合は全国値を上回った。

・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に対し、当てはまると答えた生徒の割合は５割程度であったが、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒を含めると９割を越え、全国値をやや上回った。

・「自分にはよいところがある」「どちらかといえばある」と答えた生徒の割合は７割を越えたが、全国値を下回った。

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は全国値が８割に対し、本校は７割を切っている。

3. 今後の取組みについて

平成１９年から始まった「全国学力学習状況調査」は、実施教科は国語と数学の２教科での実施となりました。したがって、測定結果は学力の一部であり、学校における教育活動の一側面といえます。しかしながら、調査によって判明した課題点は、本校の教育活動全体の工夫・改善に大いに参考となる資料ととらえ活用いたします。そして、「すべての生徒に基礎事項の定着と、仲間と共に学ぶ喜びを育てる」という本校の重点目標の推進に生かすよう取り組みを進めてまいります。

ご家庭におかれましても、学習活動の基盤となる基本的な生活習慣(早寝・早起き、規則正しい食生活、家庭学習の定着など)の確立やお子さまの成長にとって不可欠なさまざまな生活体験を通して、「生きる力」を育んでいただきますようお願いいたします。今後も家庭と学校と密接に連携を図りながら、教育活動を進めていきたいと思いますので、ご理解ご協力よろしくお願いいたします。